

## 巡検・セミナー開催のご案内

2023年度の巡検は震災をテーマに開催します。

### 「冬の巡検・震生湖とその周辺」

開催日：2023年12月9日（土）、予備日12月16日（土）  
集 合：小田急本線「秦野」駅改札前10：00集合  
ル ー ト：検討中ですが、秦野駅～秦野盆地湧水群～震生湖（昼食）～立野緑地～水無川～秦野駅を計画  
中。関東大震災で誕生した震生湖などを見学します。  
小田急線は新宿～秦野駅間約1時間10分。およそ10分  
間隔で運転しています。

## 展覧会情報

### 震災からのあゆみ—未来へつなげる科学技術—

期 間 ～11月26日  
会 場 国立科学博物館（東京都台東区）  
電 話 050-5541-8600

### 首都東京の復興ものがたり～未来へ繋ぐ100年の記憶～

期 間 ～11月26日  
会 場 区立日比谷図書文化館（東京都千代田区）  
電 話 03-3502-3340

### 大災害を生き抜いて—横浜市民の被災体験—

期 間 ～12月3日

## mini地図NEWS

### ▶ 「にわかに信じられない細長の境界」大阪市東住吉区から松原市側に600mも食い込んだ“謎の土地”が話題

大阪市東住吉区と松原市をへだてる奇妙な境界線がSNS上で大きな注目を集めている。（以下、部分抜粋）

きっかけになったのは地図情報会社の国内最大手として知られる株式会社ゼンリンのX公式アカウント（@ZENRIN\_official）が投稿した1枚の地図画像。

大和川を南に越えた飛び地のような部分からさらに約600メートルも松原市側に食い込んだ東住吉区の土地。付近はなんの変哲もない市街地だが、なぜこのような不自然な境界ができてしまったのだろうか…ゼンリンの担当者にお話を聞いた。

—どうしてこのような境界が成立したのでしょうか？

境界の経緯などを調べましたところ、江戸時代に人工川である大和川により当時の矢田村が分断されまし

### 「春の巡検・セミナー・横浜みなと博物館セミナー・見学と関東大震災の爪痕を見る」

開催日：2024年3月下旬  
詳細は未定ですが、「横浜みなと博物館」で関東大震災関連セミナーと2022年にリニューアルした同博物館の見学、周辺の巡検を計画しています。

いずれの巡検も順次財団ホームページに掲載予定。

URL <https://chizujoho.jp.org>



巡検詳細ページ。当日の開催・中止もこちらに掲示します。

会 場 横浜開港資料館（横浜市中区）  
電 話 045-201-2100

### 江戸東京博物館コレクション～江戸東京のまちづくり～

期 間 ～12月17日  
会 場 江戸東京たてもの園（小金井市）  
電 話 042-388-3300

### 記念切符と古地図展

期 間 ～12月23日  
会 場 コヤノ美術館（大阪市都島区）  
電 話 06-6358-7555

### G空間EXPO 2023

期 間 11月7～8日  
会 場 東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区）

たが、古来より村の氏神である阿麻美許曾神社を参道とともに矢田村に残した結果、今もこのような境界となっているそうです。

—他にも一見、不自然に見える境界がありましたら例としてお聞かせください。

有名ですが、やはり飯豊山にまたがる境界ですね。同様に神社までの参道が、福島県として山形県と新潟県に食い込むように残っています。（10/8、よろず～）



## 地図 紹 介

### 船の本を読んでいたら“船渠”という言葉が出てきました

(一財)地図情報センター 監事 伊藤 等

#### はじめに

リニューアルしてから初めて“横浜みなと博物館”を訪れました。以前にも増して開港と横浜、横浜港などについて迫力ある映像や表現力豊かな展示がなされていました。博物館前のお馴染み日本丸が係留されているのが旧横浜船渠会社第1号船渠とのこと。近くの2号船渠

はイベントなどにも利用されています。

今回は、その“船渠”についていつもお世話になっている地理院地図で眺めてみました。

括弧は地形図の図名、船渠6か所はweb上で任意に選択してみました(地図はいずれも約1:15000)。

#### 各社のホームページを見てください

形も大きさも異なりますが、ここで船を建造したり修理したりしているのですね。詳細は、各社工夫を凝らした内容で動画などもあり造船業を知るきっかけになると思います。(2023.9)



図1 函館どつく株式会社(函館) 東側対岸に青函連絡船「摩周丸」が係留されています。<http://www.hakodate-dock.co.jp/jp/> 1896(明治29)年創立の造船・橋梁・架設などを手がける企業。



図4 尾道造船株式会社(尾道) <https://onozo.co.jp/ja/> 1943(昭和18)年創立の造船、修理、各種構造物・機械の製作などを手がける企業。

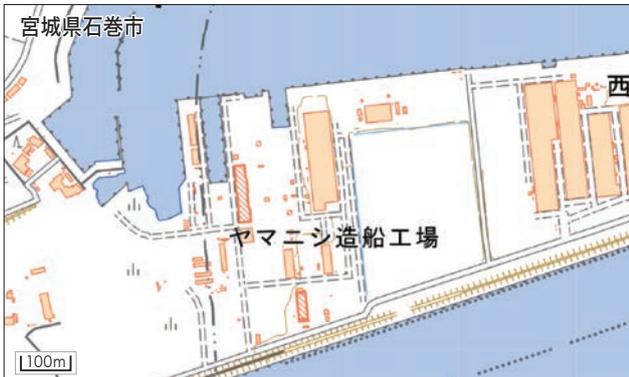


図2 ヤマニシ造船工場(広瀬・石巻・小野・渡波) <https://www.yamanishi-miyagi.co.jp/> 1920(大正9)年創立の石巻市にある造船、船舶修理、鉄構造物製造を手がける企業。

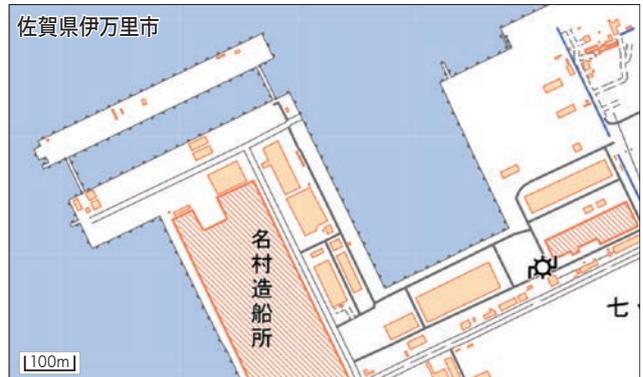


図5 株式会社名村造船所(今福・楠久) <https://www.namura.co.jp/ja/index.html> 1911(明治44)年創立の造船・修理、橋梁設計・製造・架設、各種構造物を製造する企業。



図3 株式会社 牟兵衛造船所(堅田) 北に琵琶湖大橋があります。<https://www.mokubezosen.jp/> 1872(明治5)年創立の琵琶湖に面する造船所。



図6 横須賀海軍施設ドック(横須賀) 1号ドック●は明治4年に竣工。ドックは完成時の形のまま現在も使われている。写真はWikipedia。